

## 龍南

雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 5 5
ページ	1 0 5 - 1 2 1
発行年	1914-11-25
その他の言語のタイトル	竜南
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/6395">http://hdl.handle.net/2298/6395</a>

## 龍 南

### 龍南會雜誌に對する

### 吾人の希望

三部三年 高 見 卯 吉

現今我國の中等程度並に高等程度の學校には夫夫其學校全體、即ち教職員生徒全部に依りて組織せらるゝ會、一般的名稱を以つて言へば校友會の設け無きは殆ど無し。而して此校友會は學校の種々の方面即ち運動部、文藝部、演說部其他の各部に分れて活動し、相共に統一せる學校の精神、言はゞ校風を發揮せんと努めつゝ有り。其機關雜誌として校友會雜誌發行せらる。其誌上には教員生徒の論說有り、文藝有り、其他各部の報告有り、雜報有れども要するに此に依りて幾分なりとも學校の氣風を察知せしめんと希望が此雜誌發行の主要なる目的なるべし。例へば學校内にて運動盛に行はれ、仕合等屢々有れ

ば從つて誌上も其等の記事報告を以つて賑ふべく、文藝流行して月花を賞づる人々多ければ誌上にも斯の如き文章多く見らるべし。又論說欄の振へるを見ては讀者の腦裡には此學校内には議論盛にして演說會も賑ふべしとの感浮び來るもの也。然しながら讀者何等の異狀なき通常の人にして、何等の感をも起さずんば第一に雜誌の平凡、從つて校友會、更に校内の空氣の平凡なるべきを想像せしむ可し、反對に前述の如く雜誌を一見して善惡に拘らず何等かの刺激を受けなば學校内には一種變れる空氣の漲れるを感ずるもの也。東西洋何れを問はず。吾人が歴史を繙き其時代々々の文學を研究する時は、文學がよく其時代の精神、國民一般の氣風を察知せしむる事は今更贅言を要せざる所也。一例を舉ぐれば我平安朝時代の文學其時代の國民の氣風は如何なりしぞ。何人も其文學を讀んで其時代精神が質實剛健なりしとは首肯する能はざるべし。

然し乍ら此雜誌に依りて感を起すは、燈台下暗しの如く其校内に居る者よりは寧ろ遠方に居る中學生等の方が大なるもの也。此は吾人が中學時代に經

驗したる事にして、殊に寮歌などは幼稚なる中學生の心に甚しく其學校の氣風を染むるもの也。今我第五高等學校に於いても龍南會なるもの有り、校長を會長に戴きて生徒全体は其會員なり。而して此會には運動部、演説部をはじめ種々の部設けられ夫れ夫れ相働き相協力して之が維持發展に努力しつゝある也。此各部の活動が皆中止せんか龍南會は有名無實に終らん。各部が相助け相働きて一つの大きな精神に向つて進み行かば茲に始めて龍南會存在の意義は徹底すべき也。其大なる統一せる精神こそ龍南の精神なれ。校風輿論の根源なるべけれ。此龍南會にも雜誌部有りて龍南會の機關雜誌を發行す、吾人は前陳と同じ理由にて入學の當初、此雜誌に多大の希望を有したりき。龍南は剛毅朴訥を以つてモットーとなすと聞き居たれば入學當初の龍南會雜誌には定めし三百の新入生に此モットーの意義を解して五高生の歸趣す可き所を宣言する体の大文字ある可き（たとへ入學式に於いて總務の新入生に對する挨拶中にありしと雖も）を期待したり、然るに吾人の期待は全く外れて雜誌を見るや只の文藝雜誌然として無智

なる吾人は只創奇とか言ふ特別趣味を有する者ならでは解せられざる文章其大部分を占め居たるに呆るゝと同時に失望したりき。他校の友人に之を送らんと希望なりしも中止せざるを得ざりき。之に依つて見るに龍南には斯の如く未來の大作家、文藝家を以つて任じ、若しくば斯の如く創作文藝をのみ好愛するもの多數なるか。吾人が龍南生活に入りてより己に滿二年、其間偶々剛毅と呼び朴訥と叫ぶ者ありしと雖も眞に其意を解せる者少く。世間の華奢安逸の風は何時の間にか吹き込みて學生の服裝はマチ／＼となり、制服をして顔色なからしむる様なる立派なる服を着する者一人、二人にして止まらず。尙近來校外にてはハンチング大に流行して制帽は下宿にあつて無聊に苦しめる程なりとか。偶々快男兒を以つて任する者にても徒らに弊衣破袴を纏ひ犬殺的棒を提けて大言壯語するに過ぎず。規則に觸れ、制定を犯し、牛飲馬食、惜氣なく金錢を費すを以つて自ら元氣なりとする者有るに至りては慨しき事也。斯の如き事を見、或は考ふる時は吾人は遂に龍南の精神の那邊に存するかを知る能はざる者也。

吾人は前に龍南會雜誌は龍南會の機關雜誌にして龍南の氣風は大体之に依りて察知せらるべき也と言ひたるが更に進んで龍南會雜誌は龍南の氣風を振起すべき機關を以つて任せざる可らずと切言せんと欲する者也。只其大部分を詩歌創作にて埋め世間有振れたる文學的雜誌と何等擇ぶ所なくんば何ぞ龍南會雜誌の名を付するに及ばん。寧ろ雜誌部の雜誌としたる方よろしからずや。

斯く如く龍南會雜誌が軟弱文學の投稿しか集め得ず掲載し得ず更に前陳の例を思ふ時、龍南の氣風は向上發展しつゝありと大言し得べきか。大に鞭撻し大に相戒め、相努む可き事一にして止まらざる也。然るに未だ曾つて誌上に如斯き文字を見たる事なく、常に創作や詩歌の獨り舞台の感有り、偶々言の龍南の事に及ぶ者有るも何を憚りてか徒らに諷刺を以つてし或は雜報的に之を載するのみにして、堂々旗鼓の間に非を鳴し正を推獎して九百の健兒を率ゐん概あるもの不幸にして未だ一も見ざる也。

新聞紙の正々堂々たる論説がよく社會を鞭撻し指導し得るが如く、龍南會雜誌も亦此覺悟を以つて龍南

に臨まざる可らざる也。されば今後の龍南會雜誌は從來と其方針を異にして、校の内外の事主題の範圍如何に拘らず、大に論文を歡迎して論説欄の振興に努め進んで校風作興に努力せざる可らず。又特別會員普通會員にして苟も龍南に對する意見を抱く者は腹藏なく、或は辯舌に於いて、或は龍南會雜誌上に於いて之を發表して確固たる龍南氣風の作興に力を盡されん事を切望して止まざる也。

## 龍南會役員會に關する意見

得中眞破生

近來、龍南會の風紀問題に關し、制度問題に關し、意見を把持するもの多きを見るは龍南會のため誠に慶賀すべき現象といはざるべからず。凡そ改革といひ改良といふ、若くは意見といひ異議といふ、皆其對象物に對して何等か不備の點あるか、不満足の箇所あるか、若くは過越的の或物あるかを看破して起るものなるは言を俟たずと雖も更らに、其不備不満足の點は如何にせばこれを補充しこれを満足せし

め得るか、過越的のもの冗長に渡るものはこれを鹽梅し削除する方法如何、と夫れ夫れ具體的の方案を立て、而も更らに一步を進めて、かくの如き方法にて改革したる結果は如何なる現象にて如何なる進路によりて改革若くは改良の實を擧げ得べきかを攻究するに於て始めて、其意見は生き、異議は成立す。

龍南に意見家は多し、これ誠に喜ぶべし。而も其意見が何時までも意見そのものとして存在し毫も實現の域に達せざるは如何ぞや。其意見が實現すべく餘りに理想的のものなるが爲めなるが、あらず、其意見が識者を動かすに足らざるがためなるか、あらず、唯其意見そのものが飽くまで忠實に、能く不能不備の点を指摘して餘すなくば少くとも識者は以て顧る所あるべし。然りと雖も惜むべし、具體的成案を有せずして尙方法に關連する種々の事情を顧みざるの意見なるを以て、死せるも同然、活用の道なき也。余はこの意味に於て今龍南會役員會に關する余の意見なるものを發表し識者の批判を乞ふと共に若し實行に價する箇所あらば假令一小部分たりとも直ちに以て實施せられむことを希ふもの也。これ余も亦余の

意見をして死せるものたらしめざらんと欲すればなり。而もこれが爲めに龍南に對する一の貢獻ともなば余の幸之れに過ぐるものなし。

一余の特に役員會を論ずる所以。

龍南會の役員會なるものが龍南隨一の緊要機關にして、龍南會費の運用、其事業及此に對する方法、偶發事件に對する一般輿論の代表、等すべき甚だ眞面目なる方面の事務に執掌せるものなることは一般の已に熟知せる所にして、余が特にこの役員會に關して論せんとするも亦、あらゆる枝葉末端の改革改良も煎じつむれば要するにこの役員會に關するものとなるべきを以つて、此際一步を進めて直入的にこれを研究せんと欲するが爲め也且又菲才にして今春其役員の一に選舉せられて、この會に列すること二回、役員會に關連する重要事件にも直接に觸れたるを以て、幾分か其間の消息を洞ひ知るを得、従つて余一個人としての意見は稍々公平的の立場より發表することゝなれるを以て也。實にや、龍南の死活は役員會之れが全責任を負はざるべからず。龍南にあらゆる方面の議論沸騰したりとせんか。役員會は日

頃、『輿論の代表』を標榜せるもの、如何でかその責任を免るゝを得ん。龍南に或る不平事件勃發したりとせんか、役員會は日頃『役員會の決議は龍南會員全体の決議也』と豪語せるもの、豈に其責任をのかるゝを得べけんや。龍南より或る金員の特別支出に對し、會員が若し其支出に不満を抱きたらむには如何『會費の使用權は役員會の決議そのものに在り』と放言して何等顧る所なかるべけんや。勿論役員會の決議に反抗し、若くは不満を抱くは、其反抗者不滿者に罪あり。何となれば役員會は自己が選舉したる役員より成る會にしてその會が直ちに自己を代表せるものとして満足すべきものたるや明なればなり然れども翻つて考ふれば、役員が已に會衆より選舉せられたるものなる以上、其公衆の意見は少なくとも之れを參酌せざるべからず、自己一個の意見によりて行動すべきは或は妨げすとするも苟も其自己が役員たるの性質より考察すれば、決議の後公衆より不平を聞く如きことは決して快きことにあらざるべし。今日役員會に對する意見として聞くところは大別して左の二者に歸するが如し

その一。龍南會役員選舉法に關する意見。

その二。役員會の組織に關する意見。

余も亦上の二者に其意見を歸せしむるを得、然れどもこの兩者は別々に分離して研究すべき性質のものにあらざるが如し。何となれば、役員會に役員を送る方法と其の役員會をして夫等の役員を以て如何に組織せしむるかの方法問題とは、元、一体にして其源底を一にせるのみならずこの兩者が相俟ち相助け始めて眞の價值ある役員會を成すを得なければ也茲を以て余は先づ順序として龍南會役員選舉法に關して論ずる所あるべし。

二役員選舉法に關しての余の意見。

今日表面上にあらはれたる役員選舉法は、各組より十名に對し一名の割合を以て選舉人を出し、前委員の推薦的方法に依る人物を之等選舉人の前に提出し、會長、各部長列席の上堂々選舉會を開きて以て選舉せしむる也。事は甚だ簡單なるに似て而も非常の紛糾を裏面に醸成せるは誰人も否定すること能はざるべし。少なくとも左の諸項は萬人の認めて以て不備不可となし、其改良方法に就き苦心を要する所

なるべき歟

- (1) 對部的感念により各部共、一人にても多數の委員を出さんとする傾向あること。
- (2) 各團體的感念によりて、己れの屬する團體より一人にても多くの委員を出さんとする傾あること。
- (3) 自己の團體より何々の委員を出さんが爲めに他の團體と協約して其團體より別に何々の委員を出すことに盡力せんとする傾あること。
- (4) 選舉委員籠絡の盛に行はるゝこと。
- (5) 前委員が選舉會に於て新委員の候補者を公平に提出すること至難なるべきこと。

以上の欠点ある結果として往々にして其部に最適の人物を擧ぐるを得ざることあるは遺憾なり。凡そ選舉の實は其團體の代表的人物を最も吟味して大多數の意見にて信賴すべき人物と認めて始めて成るもの也。されば(1)の對部的競争の如き廣く龍南全般の止より考察して最も不可なるもの、一也。同時に(2)の團體的競争に至りては更らに不可なるものといはざるべからず。然れ共、茲に大いに注意すべきは、如

何に團體的競争が不可なりとはいへ、苟も龍南會の役員として候補者を出さんとするには、其團體員は極力人物を吟味して、其團體にても第一流の人物を選出すべきは論なかるべし。かくて茲に十の團體ありて某部に各一名の候補者を出したらんには、結局其間に競争を生ずるに至るべきや必せり。若し夫れ(3)の候補者交換の此際に行はるゝに至らん乎、競争そのものよりも一層不可なるべし。何となれば一度其團體より候補として立てたる人物を放擲して、他に有利なる方面の妥協を爲すが如きは、龍南會に善良適宜の人物を出す上に於て、大いに差すべき行爲なるを以て也。(4)の選舉人籠絡の件は(1)、(2)の結果として競争的に起る現象にして、罪は兩者にありといへども、選舉人の識見と人格とは以てこの弊害より脱するを得ん歟。(5)の前委員の推薦は無きに若かず。何となれば推薦するにも色々の情實纏綿たるべく、且又實例として推薦せられざる人物が往々にして選出せらるゝ滑稽を見たることあればなり。

要するに團體的競争はこれを全然廢止せんとすれば、立候補の手段に窮すべし。即ち團體より公然候

補者を出さずとせば前委員の相談の結果に俟つより他に道なかるべし。かくせば前委員の推薦に事は終りて満足の結果を得べからざるや明也。故にこの際團體―各出身中學會、縣人會、同宗教會、同嗜好會等―を善良なる方面に活用するか、各クラス會をより價值あるものと認めてこれを適當に應用するか、二途其一を選ぶもよし折衷するも妨なからん。而もこれのには單に總務委員の選舉にのみ適用すべきもして他の各部委員の選舉には別に應すべき方案を有す。今總務委員を選ぶにクラス會、若くは各團體を如何に活用せしむべき乎につき研究する所あらん。

クラスより直接總務委員を選ばんとするは至つて公平の様に見えて實は反つて煩雜なる現象を呈す。即ち該委員が從來の通り一部より一名二、三部より一名を限られたる以上、クラスより選出する委員が各年級を縦に通じて各組より一名宛都合四名乃至五名に至るべきに、此際如何の處置に出づべき乎は誠に困難なる考察に價するのみならず殆んど可能的の良法を發見するに苦しむ、故にクラスのみを活用せんと欲せば勢委員數を増加せざるべからず。今に於

て委員數を増加するの要なきのみならず、クラスを活用するが爲めにこれを増加せんとするは餘りに策の窮したるもの也。茲に於て余は各種の團體をクラスと關連して活用せんと欲する也。斯くいはい一部の論者は或は閥族を云々して理想選舉を唱へ、或は多數黨を攻撃して所謂正義を云々せん。抑も閥族とは何ぞや、多數黨とは何ぞや。龍南は廣き様にして狭く而も自由の充滿せる天地にあらずや。若しこの間閥族か乃至は閥族らしきものと存在して龍南のため不利なるあらば堂々と其不利の点を指摘して之れを反省せしめ一方識者の輿論に訴ふるに若かざらんや。又若し多數黨なるものありて若し龍南に横暴を極め其發展に支障する所あらば、堂々と其横暴を攻め、非を列舉して互に相誠むるの態度に出づるに若かざらんや。これ龍南に誠意あるの士の方に採るべき男子的態度にあらずや。この狭くして自由の充滿せる龍南に閥族呼はりは餘りに其人の愚を明示するものにあらざるなきか、又此僅か八百の一團體に多數黨を云々するは餘りに其人の意氣地なきを曝露せるにはあらざるべきか。余の所謂團體とは閥族



の意味もなければ勿論多數黨の意味もあらず。唯單に大小となく一團體といふに過ぎず。而してこの所謂團體を活用せんと欲する也。之れ、團體は事をなすにあらゆる方面に於て輕便なるのみならず、今日龍南に於て或る企圖をなすに當りて其人の所屬團體を先づ問はるゝ位に、團體的感念は發達せるを以て、今急にこの感念を去らしむるの方法を採らんよりは寧ろ、これを善良なる方面に活用するの賢なるを知れば也。換言すれば、或る事件に關し全主義の者、同意見の者は相集まりて一派を成すも毫も妨げざるを謂ふ也。即ち各團體の或は分離し其は和合する、自然の好結果としてこれを認め而もこの氣運を總務委員選舉に適用せんと欲する也。即ち、始、龍南全局より考察して此人ならばと確信し得らるべき人物の若し其團體にあらば之れを公然發表すべし。かくして候補者の數が數名に至らば茲に各團體の分合は盛に行はれて各々其旗幟を鮮明にするに至るべし。茲に於てクラスの選舉人選舉を成すべし。この選舉人の所屬團體によりて大略大勢を達觀する事を得べく、かくして選ばれたる選舉人は少なくとも候

補者未決の際のものよりも籠絡の弊に陥ることなけん。即ち余の意見は、各團體より導いてクラスの選舉人選舉を起さしむるものにして、從來の如く、何等の定見なき選舉人が往々にして只クラスの席次の順によりて選出せらるゝの結果、一刻にても早く交渉を受けたる方に味方せんことを誓ふ如き有様より脱するを得るに庶幾らん歟。若し夫れ、選舉人の選出に關し、其團體の運動員がクラスの各員を籠絡買収せん事に至つては余の論する限りにあらず。只管クラスの各員の識見と人格とを尊重せんと欲する而已。

之れを要するに總務委員の選舉法は余の意見として別に從來のものと大差なし。寧ろ明白に、從來裏面に行はれたる事實をそのまゝ、表面に持ち來りて堂々とこれを行ふに若かざるを主張したるに似たり。然れども他の各部委員の選舉法に至りては余は別に新なる意見を有す。

第一類、演說部、雜誌部、

第二類、劍道部、柔道部、野球部、庭球部、端艇部、水泳部、弓術部、

この類別は現在の各部の性質より試みになしたるものにして、もと龍南の一部として設置せられたる以上何等性質を異にすべきにあらざるべけれど、自然の發達と事情とは遂に、その性質上かゝる類別をなして差支なきに至りし也。

演說部と雜誌部とは、龍南の思想界を直接支配するの威力を有するのみならず全く一般的也。各方面の思想と智識とを發表する唯一の機關なるのみならず公開的にして、何等選手の獨占的の弊に陥るなく、此意味に於て多少第二類と其性質を異にするものなり。従つて其委員選舉法も第二類と同様になし難き點ある也。

第二類に含めたる各部は大抵其性質は同様也。劍柔道部が一年生の体操副科なるの故を以て一般的と主張すべき理由を有すれども實際の現状を目撃したる者は、他の第二類の各部と要するに大差なかるべし。この各部は全く特殊的にして、假令開放的なる點に於てはこれが必要とすれども要するに選手若くは準選手の獨占的といふも敢て過言にあらざるべし。余は選手の獨占せる部を呪ふにあらず、攻撃するに

あらず。寧ろ其選手が龍南を代表して、夏の暑き日も冬の寒き朝も各々其技を鍛ひ言はゞ龍南のために犠牲になりて努むる精神と勞力とに對して常に尊敬の態度を持せるもの也。劍柔道部は在つて益々盛ならざるべからず、野庭球部は在つて愈々隆盛に進まざるべからず。苟も、龍南の威嚴と勢力とを把持するに必要にして且つ其の範圍を害せざるものは、其選手の力によりて益々盛大を來さんことを希はざるを得ず。

扱て今第一類に屬する部の委員選舉法は如何にせば則可なるべき乎。これに對しては從來の方法と大差あるべからず。唯候補者を出す方法としてクラスを活用する也。即各クラスより一二名の候補者を立て、總務選舉人を以て總務選舉と同時にこれを選挙する也。これ其方法に於て總務の選舉法と全く逆なる順序を採るものにして從來の方法に比し幾分か好結果を得べき歟。

若し夫れ第二類に屬する各部委員の選舉に至つては、從來の方注に一步を進めて、全く特殊的、分立的の選舉法を採らざるべからず。即ち各部の選舉會

を開き其部に關係ある會員、若くは其部の事情によ  
く通せる會員が集りて選出する方法なり。これは少  
なくとも從來の團體關係より生ずる委員交換の弊を  
除き得るのみならず其結果として其部にても最も人  
望あり技量あり手腕あるものを委員として其部を代  
表せしめ得るを以て其部員は満足して其委員に信頼  
することを得る也。團體關係、對部關係より生ずる  
結果として今春の選舉には著しき滑稽を見たること  
あり。即ち某部に於て已に候補者は確然と一般の認  
むる所に歸せしにが、はらず、或一部の團體は無理  
に他の人物を舉げてこれが選舉に奔走せり。其人物  
たるや其部に於て從來何等重きをなしたることなき  
のみならず其力量は遙かに第二流第三流に位すべき  
にかゝはらず其團體内のみにては稍勝れたるを以て  
已に一般の認むる候補者を對手取りたる、其愚や、其  
輕舉や、笑ふべきのみ。而も選舉の結果は其候補者  
は相應の得票ありき。若し其團體が所謂多數黨なり  
せば或はかゝる不適當なる役員を出したるやも知る  
べからず。第二類に屬する各部に於ては其部員の力  
量上、人物上比較的明瞭なる差等を附し得らるべき

を以て、其部のみに於て委員選舉をなさば比較的適  
當の人物を舉げ得べきは再言の要なかるべし。この  
類の部委員選舉を龍南全局の問題となす必要は、種  
々の弊害を惹起せざる範圍内に於ても猶認め得ざる  
が如し。されど一方より考察すればこれには次の二  
様の異議を受くるが如し。

(1) 龍南各部に於て使用する會費は特別に何々部費  
として其部員のみ納入するにあらず。龍南會費と  
して一纏めにして納入するものを各部が分擔して  
使用するものなる以上、何れの部委員も皆龍南會  
員の認むる、即、龍南全會員にて公然選舉した  
る結果のものたるべく、この性質の委員をして自  
由に一定の範圍内に金品使用其他の事務を行はし  
むるを最も適當と認む。故に分立的委員選舉は徒  
らに各部の孤立を惹起し、延いて龍南の不統一に  
歸するに至らん。

(2) 單に某部員と稱すれば龍南の全會員は皆各部員  
たるの權利あり、故に今某部委員を選舉せんため  
に其部員を召集する時に、龍南會全員が集合する  
とせば、投票數は八百の多きに達し、この間に從

來の如き弊害若くは弊害らしきものゝ行はるゝは寧ろ以上ならん。かくて龍南會中にまた小龍南會を作成するの觀を呈すべし。故に分立的委員選舉は從來の選舉法よりも一層紛糾錯雜の珍現象を現出すべきのみ。

余は以上の二異論を當然のものと認む。而もこれに對する意見は余にも又之れ有り。即ち、茲にも亦クラスを活用する也。各クラスより各部の選舉毎に其部に關係あるか、最もよく其部の事情に通せる者を適宜選出しこれを選舉人として選舉せしむる方法之れ也。かゝる選舉人は苟も今選舉せんする其部の委員に對しては一定の定見ありて他人の容喙の能くこれを左右すべからざるや明也。かくせば異論の(1)(2)共に消滅すべきに似たり。之れを要するに分立的選舉法と云ふ從來のクラスにて出す選舉人が、總務を選び、各部委員を選ぶて八方面の選舉權を有する結果として起る種々の弊害を脱し、少なくとも其部の委員は其部を最もよく知れる部員の満足すべき委員たらしめんとする理想を出來るだけ實現せんための方方法而已。かくして數回クラスにて選舉の事行

はれ或は煩雜に傾くの嫌なきにあらざるべきも、苟も龍南の死活に對して全責任を負ふべき役員會に最も優良の人物を送る手段なるを思へば、其煩雜は反つて有意義の一種の趣味にはあらざるべき歟。先に余が各部を分ちて二類とし、演說部と雜誌部とを一類に纏めて其委員選舉には總務選舉の選舉人を以てせんとしたるも、慾をいへば第二類と全様の分立的選舉に若くはなきを以て切に之れを望むものなれども、比較的これを第二類より分離し、以て幾分かクラスにて選舉人選舉の回數の多きより生ずる煩を避けんと欲したるに外ならず。

以上にて大略。選舉法に關する余の意見は述べ終れり。余の意見は以上の如く、從來のものを全然破壊せんとしたるにあらずして改良すべき點を改良せんと欲し、

(1) 黨派的競争の結果より生ずる比較的不當の委員を出さうらんがために、即比較的適當の委員を出さんがために、分立的選舉法を採らんとすること。

(2) 一方に於て各團體の意味を明瞭に善良なる方面

に活用すると共にクラス會を更に重要な位置に進めんとすること。

の二方針を提供したる也。余は進んで役員會に關する意見を發表せざるべからず。

### (三) 役員會に關する余の意見

(その一) 役員會の組織を擴大せよ。

現在の役員會は會長の下に各部部長、総務委員、各都委員、各組々長ありて之れを組織す。但し豫算協議會に於ては組長全部を列席せしめずして單に會計係の一書記を加ふ。豫算會に組長を列席せしむる事の至當なるは何人も認めて其實行の速ならん事を熱望せる所、余はこれに就て喋々を要せざるべく、寧ろ一步を進めて廣く一般の役員會の組織を擴大せんことを主張せんと欲す。主張の主旨は即ち役員數を増加するにあり。實際現行の役員會法則に於て其役員は其色彩上二大別するを得べし。

(1) 第一黨、會長、総務、組長、(二十七名)

(2) 第二黨、各都々長、各都委員、(三十一名)

この黨別はすべての場合に適應せずと雖、其役員の性質より推して以上の如き二大色彩に別つことは

無理なからん歟。

扱て第二黨にあては直接利害關係の生ずる場合——例へば豫算會議の場合——ありて分合に容易なるを以て公平なる決議をこの黨のみによりて得ることとは或は至難なるべき事情あるが如し。これを補ふ手段として第一黨あれども、人數に於て四名を減ずるのみならず、若し假りに第二黨が盡く一致したる時は、會長及総務が決議票に加はらざる限り、且又殘餘の一黨が如何に全部第二黨に反抗するも、決議は常に第二黨のために奪はるゝ事となるべし。この点より考察しても豫算會議——第二黨の聯合の最も顯著に表現せらるゝ——に第二黨のみを列席せしめ第一黨に屬すべき會長、総務、會計課書記の四名を以て其優勢の聯合軍に當らんとする、寧ろ暴と謂つべし。宜なり矣、毎學年の豫算會議に於て総務の計上したる其學年間の豫備金——一般より見て最も必要なる、而も會長が極力その維持を主張したる——の殆んど全部は各都のために蠶食せられ、その聯合軍の猛勢一轉、基本金に突進せんするに至るや、第一黨の全部ありて尙且公平なる決議を得べからざる

場合あり。況んや第一黨を全然削除するに於てをや而も其削除する場合の役員會が、龍南會員全部の支出したる會費の使途を議する豫算會なるに於ては、其の習慣の何時の頃より如何なる事情の下に始まりたるやは識らずと雖も、漸く覺醒の聲を聞く今日にありては、最早論駁の餘地すら無きにあらすや。故に余は豫算會議にも亦組長を列席せしむるものとして、更に一般の場合に論究せむとすること前述の如く然り。

如何なる割合に兩黨の人數を鹽梅すべき乎。これを議せんとするに先ちて、各部々長は實際上（理論上は暫らく措き）決に加はるべきものなる歟を考へざるべからず。元來部長は其部の事業監督と金錢出納上の監視とをなすのみにして、直接其部委員の事業と其部の内情に干渉することなき以上、實際の上より觀察して、生徒と同列に決に加はるは輕舉とも考へられざるにあらず。唯其部の事を議する時にのみ決に入り、他は比較的顧みられざりし例は今春の豫算會議に於て余の目撃したる所也。されば余は、部長は飽くまで監督の位地を過越せずして役員會に

於ても亦監督のみの地位に立たるべきものと認むるもの也。然しこれに就ては議論を存し置くも、早計に論斷して誤つに勝るものとして、兩様の準備をなんと欲す。

(1) 各部長を決に加ふる時。この場合は第二黨は依然として三十一名の絶對多數を制すべく、これと同様に對立せしめんために第一黨に増加すべき人數は、會長總務を除けば、七名となる。凡そ公平の分子は多きを妨げざるを以て此際、第一黨を第二黨の二倍強となし、即第二黨を七十二名となし、第一黨に對立せしむべし。勿論この七十二名は各クラスより組長の外二名宛の議員を選出するに由りて生ずる數也。

(2) 各部々長を決に加へざる時。この場合も主義は(1)の場合と同様なれども、約百名以上の大會議の結果として自然生起し易き現象の『不秩序』を幾分脱却せん方面より考へて餘程容易に行はるべき案なるべし。即ち、第一黨をして第二黨の二倍内外ならしむる爲め各クラスより組長を加へて二名の議員を出し、四十八名を以て二十二名に對立せ

しむるなり。この場合は組長の外一名の議員は副組長を以て之れに當つべく、少なくとも一學期間議員權を有せしむるの便ありて(1)の場合の如く、組長の外二名の議員を役員會の召集毎に選舉する要なきを得る也。

余は以上の如き方法にて役員會の組織を擴大せんと欲する也。各部委員は勿論龍南會會員全般の代表的人物として選出せられたるものなれども、其部に對する力量と識見と直ちに以て龍南全般の思想、事件、事務に順應すべく働かざるゝ事は、其部のみの思想、事件、事務に順應すべく働かざるゝ程に期待すべからざるを思ひ、稍もすれば分合し易き傾向ある所謂第二黨をして絶對多數を役員會に占めしめんよりは、比較的公平不偏不黨なる所謂第一黨の議員を増すを以て、比較的適確の決議を得べきを認めたる結果に外ならず。

(その二)組長に就きて

余は始終一貫クラスを從來よりも一層有意義に活用せんことを主張し、役員の選舉にも、役員そのものゝ上にも、クラスの存在を明確ならしめんとせり。

茲に於てか組長なるものに就き一言論及せざるべからず、これ現在の組長の人物傾向、役員組長に對する態度及其觀念、組長の義務權利、等に關し些か意見の余に亦存するあればなり。

抑も組長は其性質上、第一クラスを形式内容共に代表すべき地位に立つべきこと、第二役員會に一席を有占すべき權利あること、を其存在の大眼目とすべきものたり。然るに現今稍もすれば、組長なるものゝ存在の意義は他方面に解釋せられむとし、往々にして『組長は要するに高等小使なり』てふ語を聞くは方に慨嘆すべき現象にあらずや。成程、先生缺勤の際の時間繰上げが平常組長の事業として唯一の而も人氣取りの仕事たり。作文宿題提出期日の延期を懇請して容れらるれば其組長は『氣の利きたる』人として組員に喜ばる、獨逸語の餘り進まざらん事を堂々と先生に交渉すれば『案外に大膽なる』人として組員の受け頻りに揚る。組長自身の自ら以て足れりとする心得と、組員の組長に望む所の要求とは漸次かくの如くして墮落し、組長は唯、氣の利きたる世話焼き上手の、所謂組員に馭せられ易き方面の

人物なれば事足るかの如くに解せらるゝ傾向の見はるゝ事あるは如何ぞや。勿論、平常の事務取扱ひには利口者や世話好き者が組長たる場合が比較的便利なることあるべし。然れども一度、眼を龍南全局の上に注がば、平常の組長としての事務は殆んど末端の論する價值なきことのみ。苟も識見秀んで才能越えたる所謂志あるの士が能はざることあらんや。識見才能の秀越せる上に萬般の世話事を輕快に切り抜くの腕ある人物これ眞に龍南のために喜ぶべき組長にあらずや。組長は平常、些々たる人氣取り的の事務を殆んど組員の小使として取扱ふの已むを得ざる地位に在りと雖も、一度役員會の開かるゝに當つては。余の所謂第一党として不偏公平の所見を楯に飽くまで龍南のために氣を吐くの慨を抱懷せる程の人物に附随すべき要職なり。凡そ一のクラスに識見才能の秀越せる人物は自然頭角を現はすものなり。同時に、世話上手の利口者亦衆に着目せられ、學業の成績佳良なるもの亦衆に最初の印象を與ふるに利便なるが如し。この三者の内何れを組長の要職に選ぶべきかは、苟も事の大小輕重に關する意識ある者

の期せずして一致する所なるべし。而も其人物を實際上舉ぐる能はざる如き所以のものは、平常事務取扱の輕快ならざるべき懸念と、先生の信用如何に對する憶測とのあるがためならすんばあらず。憶、平常事務とは何ぞや、要するに時間繰上げが大部分たらんのみ、時間繰上げに豈に輕快と遲緩とを差別せんや。先生の信用とは何ぞや、學業の佳良なるのみが先生の信用を得る唯一の道にあらざるべし。要するにこれ憶測の甚しきものゝみ。若し夫れ一クラス又は龍南全局に偶發時件の生起せんか、内はクラスの意見を速かに統一して他との交渉を敏捷に進め出でゝは外に役員會に其抱懷せる識見を何等他より拘束せらるゝなく吐露すべき、敏腕と膽力とを具備せるクラスの代表的人物こそ實に組長として頼母しけれ。余はかゝる方面に關する組員の自覺と、組長の心得とを要求してやまざるもの也。然らずんば組長は要するに義務を履行して權利を主張せざる凡俗たるべく、組員は要するに龍南を思はざる自我的利己的の一團體たるに終らんのみ。而もかくては余が先に披瀝したる役員會の組織擴大の意見も永久に空



虚なる文字の陳列に終りて、識者の一顧だに得ざる以前に於て既に業に枯死の悲運に在らん而已。

#### 四 結論

去る六月に發行せられたる我が龍南會雜誌を見るに殆んど一半は學校當局に對する大膽なる或る一部の意見の發表、龍南會に對する區分的の異議、全會員の或分子に對する攻撃等を以て占領せられたるやの觀なき能はず。兎角近來各方面に向て種々の改革的意見の聲を聞くこと多きは、余のこの文の冒頭に言ふ如く甚だ慶すべき現象たるが如し。この種の意見は少なくとも自己の、其對象物に對しての自覺より生るゝものなる以上、自己を其對象物の同類と見たるものか、乃至は其物に對して幾分の同情と敬意とを拂ひたる結果のものたらざるべからず、換言すれば、自己が其對象物中に在りて其周圍の其對象物を愛敬する餘り、自己を中心として其物に對してより以上の何物かを善意に欲求するより生ずるものたるべき也。意見の多きを歡迎する所以は一に茲に在り。極言すればこの意味の自覺より發する意見はやがて龍南の一精神たるべき也。

噫、「龍南の春は未だ來らず」と、且つ慨し且つ期して去りてし當年の志士は今何處。龍南には春こそ來たらね、冬の寂愴は見るべからず。起つて悦々議を唱へ、正義の旗押し立て、當然の主張を貫徹せんため、戦はん勇氣ある者の集まりて成す雲霓はやがて美はしき春日を現はさんとする。噫、久しき漢々の間の鬱氣が、今所在に聞こゆる正義の叫びの、自覺の奮氣が、破れて出でたらん生氣を振はする時一時に散じて春日に滅ぶるの愉快は蓋し龍南の精神を大成するものならん歟、

龍南に縋る或る呪ふべきものは打ち搥うじて可なり。或るものは呪ふべきものとなし或る者は呪ふべからずとなす時、勝敗は一に懸つて正義の有無に在り。由來、正義は唯一筋の大道のみ、時に權道ありて由るべしと雖、歸する所は一極致、兩立するものにあらざる也。同時に、舊慣は或る意味に於てその存續の必要は撤廢の理由を消滅せしむる事あり。而も苟も存續の必要なくして徒らに他のものゝ發展を支障することあらば、その舊慣は斷然撤廢せざるべからず。現在、龍南に、正義を以て堂々と主張し得

ざる。或るものゝ存在するあり、舊慣の云々を固執して容易に下らざる頑固なる或るものゝ縋るあり。或る人の以て呪ふべしと揚言せるは蓋し之等の謂歟。

然れども翻つて之を考察するに、已に舊慣そのものが現行の龍南會制度なり。龍南會制度の區分區分は舊慣の區分區分なり。故に一區分の舊慣の撤廢は龍南會制度の一區分の撤廢となりて、實に問題は重大ならざるを得ず、假令その舊慣が呪ふべき或るものゝ一つなりとするも、これを急に撤廢することは寧ろ困難なる場合多きが如く、その困難を十分承知の上にて爭ふは勇なれども賢ならず、何となれば由來正義は必ずしも不正義に勝つと斷すべからざるのみならず、その舊慣撤廢に伴ふ種々の困難が終に永久に、其事業成就の見込なき迄に根底を固むべきことは強がちなしと斷すべからざるを以て也。余が漸進主義を以て、先づ役員會制度の改良を主張したる所以は一に此に在り。余亦龍南に或る呪ふべきものゝ存在するを認識するものゝ一人也。存続の必要大ならざる舊慣を擧げ得るものゝ一人也。而してかかる事物を撤廢せんことを切絶に希ふものゝ一人也。

然り而して猶且つ之を云爲せざるは、要するに根本義なる役員會の改良が實現せられたる曉は、最も有効にあらゆる技葉末端の削除追加改善は期せずして着々表現せらるべしと確信し、今は唯改良の第一階梯を固むるの賢にして且つ其期に應じたるを信すれば也。故に余は少なくとも余の卑見が識見の一顧を得んことを望むもの、それも亦龍南を愛するの熱情の欲求ならんすばあらざる也。

噫、僅々六千字の一文、書くにも語るにも僅少の時間を要せば足る。而も眞情を抱くは易く、吐露するは難し。余のこの拙論を披櫪する、全く龍南なる對象物を受するより發し、會員を思ふに起り、會長及役員を信するに露はれたるのみ。噫、豈に龍南を愛せざるべけんや。豈に會員を思はざるべけんや。豈にまた會長及役員を信せざるべけんや。(大正三年七月九日稿) (『役員會に書記數名を列席せしめて雜誌上に其報告をなさしめざるべからず』との余の意見は今回實現せられたるに付き、會長の英斷を感謝して特にこれに關する意見をこの論文より削除したるを附記して置く)